

ISO 9001:2015におけるリスク “*RISK*” IN ISO 9001:2015

ISO/TC 176/SC2

Document N1222, July 2014

原文は” <http://isotc.iso.org/livelink/livelink?func=ll&objId=8835883&objAction=browse>”内のリンクから入手可

リスクに基づく思考とは何か？

あなたはどのように考えますか？

リスクに基づく思考とは何か？

私たちが皆あまり意識せずに行っていること。

例えば・・・

道路を渡るとき、

- ▶ 誰も動いている車の前に、出ることはしません。

-
- ◆ リスクに基づく思考は従来から ISO 9001 にあった。
 - ◆ 2015年版ではそれをマネジメントシステム全体に組み込んでいる。
 - ◆ ISO 9001:2015ではリスクは初めから規格全体を通して考慮されている。
⇒ 予防的行動が戦略的計画の一部となり、運用とレビューでも取り上げる。

プロセスアプローチとの関係

- ◆ リスクに基づく考え方は既にプロセスアプローチの一部を構成している。
- ◆ 例えば、道路を渡る計画を立てるとき、達成すべき目的・条件(徒歩で何時までに・・)を考慮のうえ利用可能な手段の中から、
 - － 直接、道路を横断するか
 - － 近くに歩道橋を利用するかどちらを選択するかは、リスク(及び機会)を考慮してプロセスを決定しているでしょう。
- ◆ また、実行した結果から、こんな場合はこれでよかった、こうすれば良かったとの反省・評価を次の計画に活かして、プロセスを再設計することでしょう。

リスクと機会の違いは？

- ◆ リスクは通常ネガティブなものと理解される。
- ◆ リスクに基づく思考では、リスクのポジティブな面を機会 (opportunity) と捉えることができる。

問題です！

「約束の時間までに交通量の多い道路を無事に渡る」にはどんなリスクと機会が想定されるか？

選 択 肢	リ ス ク	機 会
道路を直接横断する		
歩道橋を利用する		

回答例です (N1222, July 2014)

選 択 肢	リ ス ク	機 会
道路を直接横断する	動く車に衝突して負傷するリスクが増える	道路の向こう側に速く渡る機会を得る
歩道橋を利用する	歩道橋の利用により到着時間に遅れるリスクが増える	車により負傷する可能性が減る

機会とリスクの関係

- ◆ 機会はいいつも直接リスクに関係するとは限らないが、目的(objectives)とは常に関係する。
- ◆ 状況を考えることによって、改善の機会を見つけることが可能かも知れない。

<例>

現状を分析すると、目的(安全かつ時間に間に合うよう)達成のさらなる改善の機会が見つかるかも知れない。

- 道路の地下を通る地下道
- 歩行者専用の信号機を設置する
- 道路を迂回させてその地域は車の立入禁止とする

- ◆機会を分析してそれについて行動できるかすべきかを考えることが必要である。
- ◆機会を活かすことの影響と実行可能性の両方をよく考えなければならない。
- ◆どんな活動(対策)でも実行されれば状況及びリスクは変化し、その時点で再考慮されなければならない。

リスク主導型のアプローチを使ってみよう

◆ あなたのリスクと機会は何か識別しよう

⇒状況に依存する。

<例>

交通量の多い道路を渡る時のリスクとほとんど車の走っていない小路を渡る時のリスクは同じではない。

◆ あなたのリスクと機会は何かを分析し、優先順位
をつけなさい

<例>

目的: 私は、定められた時間に会議に間に合うよう
道路を安全に渡る必要がある。

より速く目的を達成する機会は、怪我をする可能性と釣り合いがとれなければならない。

時間に間に合うことより、怪我をしないで会議にでることが重要である。

⇒もし直接道路を渡って怪我をする可能性が高ければ遅れてでも歩道橋を使う方が受容されそうだ。

-
- ◆ 別な日に、歩道橋が200m先にある。渡ると時間がかかる一方、天気が良く、視界もいい。今の時間、車もさほど多くない。
 - ◆ 道路を横断しても怪我をする可能性はリスクの許容範囲で低く、会議に間に合うという機会をもたらすと判断した。

リスクへの取組みを計画する

- ▶ 道路を渡る際、怪我をするリスクを可能性を下げるには
 - 交通量の少ない時間帯に
 - 渡るルート(障害がない、視界がいい)
 - 横断中に、安全確認できる

もっといい機会を考慮する

- ▶ 道路を渡らなくてもいい所に会議の場を変更
- ▶ 交通量の少ない時間帯に道路を渡れるよう会議の時間を変えられるか
- ▶ 電子メールでのやり取りは可能か

7. 結論～2015年改正を活用し「リスクベース思考」の下記のメリットを活かしてください。

- ▶ リスクベースの思考は新しくはない
- ▶ リスクベースの思考は私たちが既に行っていること
- ▶ リスクベースの思考は連続的／つながりがある
- ▶ リスクベースの思考はより良い知識と準備をもたらす
- ▶ リスクベースの思考は目的達成の可能性を高める
- ▶ リスクベースの思考は不十分な結果になる可能性を下げる
- ▶ リスクベースの思考は予防を習慣的に実施できるように導く